

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・母子保健コーディネーターが平成29年度から区にモデル配置されたことにより、妊娠期からの切れ目ない支援についてこれまで以上に拠点と区で話し合い共有することができた。
・区役所事業に参加された方を当日拠点に案内するなど近さを活かした協働もできた。距離の離れた地域に対してはエリア別子育て支援ネットワーク連絡会を通して地域の資源と協力して支援している。

【今後改善が必要と思われること】

・子育てのニーズが多様化していく中で、統計データやアンケートなど定期的に共有し支援の方策を検討する。
・オンライン化に伴う新たな支援方法の検討

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・拠点の7事業について協働協定書の役割分担に則り、定例会の中ではもちろんのこと子育て支援連絡会や子育てサロン連絡会等共に事務局として実施する事業においても目標や課題、方向性について共に話し合い実施することができた。

【今後改善が必要と思われること】

・事業の方向性や見通しについて、双方の考えをより共有できるよう定例会や事業の話し合いの機会を持ち、支援がより充実できるとよい。
・子育てのニーズがより個別化していく中で、どのように応えていくかをお互いの役割に沿って考えていく。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・子どもの育ち、親子の関係、愛着形成など「普遍的なこと」を大切にすることを共有して事業を実施できた。
・定例会や事業の振り返り等でアンケートを共有したり、方向性の確認を行い、半年ごとに協働協定書の内容を振り返る時間を設け、協働で取り組んでいる強みを生かした事業が実施できた。
・新型コロナ対策を講じた上での効果的な拠点事業の実施方法を相談の上進められている。

【今後改善が必要と思われること】

・子育て世代包括支援センターで取り組んで効果のあったことを地域にフィードバックしていく。
・子育てを取り巻く環境の変化や社会情勢の変化が大きい中での子育て支援について、子育て世代包括支援センターとして共有しながら共に拠点事業を検討していく。